

2020（令和2）年度

# 事業計画書

【概要】

社会福祉法人芙蓉会

# 社会福祉法人 芙蓉会

## 基本理念

第一 私たちは、「老人は国の宝」の念をもって高齢者の尊厳を守り、その自立を精一杯ささえたい。

第二 私たちは、高齢者が「ここに相談し、ここで生活できて本当に良かった。」と言ってくださる、そんな法人・施設でありつづけたい。

第三 私たちは、常に向上心をもって研鑽に励むと共に、協調と和を大切にしたい。

# 社会福祉法人芙蓉会 2020年度事業計画書【概要】

## ○ 芙蓉会 基本理念

I. 法人本部	1
• 基本方針	
• 取り組み目標及び取り組み計画	
II. 芙蓉園	4
• 基本方針	
• 特別養護老人ホーム芙蓉園	
• 短期入所芙蓉園	
• デイサービスセンター芙蓉園	
• 認知症対応型通所介護芙蓉園（ほのか）	
• 地域密着型通所介護つるま屋	
• ヘルパーステーション芙蓉園	
• 居宅介護支援事業所芙蓉園	
• 南第1高齢者支援センター（小川あんしん相談室）	
• ～ほっとステーション～ながれぼし	
• 総務課	
• 栄養課	
III. 上総園	18
• 基本方針	
• 特別養護老人ホーム上総園	
• 短期入所生活介護上総園	
• 上総デイサービスセンター	
• 居宅介護支援事業所上総園	
• 上総園ふれあいデイサービスセンター	
• 君津市東部地域包括支援センター	
• 総務課	
• 栄養課	
IV. 文京地域	28
• 基本方針	
• 文京湯島高齢者在宅サービスセンター	
• 文京昭和高齢者在宅サービスセンター	
• 昭和介護保険サービスセンター	

# I. 法人本部

## 【法人本部】

### 基本方針

昨年度は、法改正に伴う社会福祉法人のガバナンスの確立に向けて、当法人の組織改正を行い、その基盤作りのための規程類の整備とルール化等について推進してきた。一方で、介護報酬改定と深刻な人手不足により、芙蓉会にとっても厳しい経営状態になった。

今年度は、持続可能な経営基盤の強化に取り組むとともに、昨年度から引き続き法人のあらゆる事業活動についての説明責任とその運営の透明性を推進していく。そのためには、経営上のリスクを丹念に取り上げ、法人ルールの「仕組み化」と法人経営の「見える化」を推進する。そのためには、内部統制機能を高めると同時に、執行に係る法人役員との情報共有及び協議を通じて、統制の実効性及び効率性の向上に取り組む。

最重要課題でもある人材の確保のために、多様な求職のニーズを持った人員を確保できるよう各種媒体を通じたきめ細かな採用活動を進める。一方、定着化のためには、働きやすい職場環境の整備のために、多様な雇用形態にあった育成システムを整備するとともに、職員の評価や報酬の在り方の検討、縦横のコミュニケーションなど、それぞれの拠点ごと、拠点間の横断的な調整・連携機能の促進に取り組む。

今後、重要課題となる医療と介護の連携等、地域公益活動については、芙蓉会として社会福祉法人のあるべき方向性を示し、それぞれの拠点ごとの地域環境・地域ニーズを踏まえて事業運営に取り組む。

### 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) 組織改革・意識改革～組織風土の意識改革に取り組む
- (2) 持続可能な経営基盤の確立のために経営戦略の策定に取り組む
- (3) 多様な人材確保及び定着化のための態勢整備に取り組む
- (4) 財務・会計管理における財務規律の強化に取り組む
- (5) 地域の高齢者が安心して暮らせる生活の実現に向けて取り組む
- (6) 地域公益的活動の取り組みについての検討を行う
- (7) 利用者が安心して暮らせるための建物、設備の計画的更新を行う

### 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) 組織改革・意識改革～組織風土の意識改革に取り組む
  - 1) 各拠点の円滑な業務のための法人本部の統括的な機能を強化する。
  - 2) 経営状況の把握と改善に取り組む。
  - 3) 縦と横のコミュニケーションの場の設定と具体的テーマに基づいた提案型の組織風土作りを進める。
  - 4) 法人内部監査の実施による内部けん制機能を強化する。

- (2) 持続可能な経営基盤の確立のために経営戦略の策定に取り組む
  - 1) 法人理念に基づいた経営戦略を打ち立て、その手法の「仕組み化」を確立する。
  - 2) 全方位的なリスクマネジメント体制の構築、リスクアセスメントも含めたチェック体制と規程類を整備する。
  - 3) 情報管理規程に基づきその運営体制を強化する。
  - 4) 法人事業継続計画（BCP）の実効性について検証を行う。
  
- (3) 多様な人材確保及び定着化のための態勢整備に取り組む
  - 1) 求職者の多様なニーズに合わせたリクルート活動のため、ホームページやSNS等の活用を図る。
  - 2) 職員が働きやすい職場環境の整備を行う。
  - 3) キャリアパス基準表の拠点間の統一化と見直しを図る。
  - 4) キャリアパスに連動した育成体系の整備を図る。
  - 5) 外国人労働者受け入れに向けての具体的検討を実施する。
  - 6) 法人給与の一本化に向けた具体的な検討を行う。
  
- (4) 財務・会計管理における財務規律の強化に取り組む
  - 1) 外部会計監査法人による法定監査導入の動向を注視しながら準備を行う。
  - 2) 的確な経営状況の把握と積極的な情報開示を推進する。
  - 3) 管理指標による各拠点の情報共有化及び運営に関する協議を行う。
  - 4) 包括的なリスク規程の整備に向けた検討を行う。
  
- (5) 地域の高齢者が安心して暮らせる生活の実現に向けて取り組む
  - 1) 高齢者の暮らしを支える福祉・介護・医療の連携態勢の強化
  - 2) それぞれの拠点ごとの地域特性に応じた連携強化の在り方について、再度地域や関係機関等から求められているニーズの分析を通して検討し、圏域内の介護・医療等関係機関等との関係を強化する。
  
- (6) 地域貢献活動の取り組みについての検討を行う
  - 1) 芙蓉園の地域性を鑑みた新たな取り組むべき事業について、高齢者支援センターを中心として検討を行う。
  - 2) 上総園の地域性を鑑みた新たな取り組むべき事業について、関係部署間での検討を行う。
  - 3) 文京湯島・昭和高齢者在宅サービスセンターの現在実施している自主的活動の継続と新たな地域性を鑑みた事業に関する検討を行う。
  
- (7) 利用者が安心して暮らせるための建物、設備の計画的更新を行う
  - 1) 第4期中期計画に基づく、建物の改修並びに固定資産、備品等の更新等を実施する。

## II. 芙蓉園

## 【芙蓉園】

### 基本方針

今年度は、第4期中期計画『10年先も安心して暮らせる生活の実現』の2年目となる。1年目の課題について共有し、それをさらに深め、実践していく年となる。

当法人は、法人本部を執行機関としての運営体制を確保し、組織の透明性の確保、財務規律の強化、コンプライアンスリスク管理に向けて取り組みを始めた。

当法人の運営体制に沿いながら、各介護保険事業においては、今後も行政や他機関と連携しながら、すべての利用者が住み慣れた地域で、その人らしく安心して過ごせるよう取り組む。

具体的には、専門職としての基礎に立ち返り、各職員の知識や技術の理解を深めるとともに、多様化する利用者ニーズに合った個別支援が提供できるよう、職員のやりがいを引き出す教育体制の強化を図る。また、地域住民と協働しながら地域づくりを進めることで、地域との繋がりを深め、ニーズに沿った支援体制を構築する。

制度改正や人材確保など、社会福祉法人を取り巻く環境が大きく変わる中、改めて基本に忠実に、かつ柔軟性を持った取り組みを行うことで、地域の方々に安心して選んでいただける芙蓉園を目指す。





## 【特別養護老人ホーム芙蓉園】

### 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) 利用者が心地よく生活できるよう取り組む
- (2) 全職員の介護技術と知識を向上し、職員が自ら考えて行動できることを目指す
- (3) 目標利用率 97.5%を達成する（空床ショート含む）

2020年度目標利用率	2019年度目標利用率	2018年度実績利用率
97.5%	95.5%	95.2%

### 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) 利用者が心地よく生活できるよう取り組む
  - 1) 職員の接遇向上に取り組み、丁寧な対応に努める。
  - 2) 清潔保持に取り組み、感染症予防に努める。
  - 3) 快適な生活環境で過ごせるよう、整理整頓に努める。
- (2) 全職員の介護技術と知識を向上し、職員が自ら考えて行動できることを目指す
  - 1) 褥瘡防止に取り組むことで関連する知識、技術の向上を図る。
    - ① 「褥瘡予防・治療計画書」の周知を図り、継続したケアの提供に努める。
    - ② 正しいポジショニングの知識・技術を習得し、適切な体位交換を行う。
  - 2) 記録の向上に取り組む。
    - ① 多職種カンファレンスの場を活用して、アセスメント表やケアプランに関する理解を深める。
    - ② ケアプランの適正な作成方法を共有化し、プランに基づくケアに努める。
- (3) 目標利用率 97.5%を達成する
  - 1) 待機者情報の管理と入所候補者に対する早期面談等の実施により、退所後から入所までの空きベッド期間の短縮に努める。
  - 2) ショートステイとの密な情報共有を継続しながら、空床ショートの受入れ方法の拡充を図るとともに、より柔軟な利用者の受入れに努める。

## 【短期入所芙蓉園：ショートステイ】

### 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) 利用者が行きたいと思うショートステイを目指す
- (2) ショートステイ利用後、入所時の心身の状態在宅生活にもどれることを目指す
- (3) 目標利用率 95.5%を達成する

2020年度目標利用率	2019年度目標利用率	2018年度実績利用率
95.5%	93.5%	92.3%

### 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) 利用者が行きたいと思うショートステイを目指す
  - 1) 対人援助や接遇に対する理解を深め、職員が身に付けることで利用者にとって心地良い支援に繋げる。
  - 2) アクティビティケアの理解を深め、新たなアクティビティケアに取り組む。
- (2) ショートステイ利用後、入所時の心身の状態在宅生活にもどれることを目指す
  - 1) 適正なアセスメントが行えるよう、認知症や医療等に関する基礎知識を毎月学習し、観察力の向上に繋げる。
  - 2) 生活支援技術の基礎知識を毎月専門書や専門職に学び、残存機能に応じたケアを行う。
- (3) 目標利用率 95.5%を達成する
  - 1) 特養と連携し、ミドルステイや空床の活用方法を構築する。
  - 2) ホームページ、フェイスブック等の広報媒体に、アクティビティケアや各種イベント時の様子を隔月発信することで、ショートステイの魅力をPRする。

# 【デイサービスセンター芙蓉園】

## 1. 2020 年度 取り組み目標

- (1) サービスの提供について
- (2) 家族や地域との関わり方について
- (3) 専門性の向上への取り組みについて
- (4) 目標利用率 86.5%を達成する

2020 年度目標利用率	2019 年度目標利用率	2018 年度実績利用率
86.5%	85.3%	85.5%

## 2. 2020 年度 取り組み計画

- (1) サービスの提供について
  - 1) 利用者や家族の声を反映しながら、イベントの企画や趣味活動の提供方法を検討する。
  - 2) 自立支援に効果的な生活リハビリを、継続して行う。
  - 3) 利用者間の相関図を作成し配席に反映させ、居心地のよい快適な環境を提供する。
- (2) 家族や地域との関わり方について
  - 1) 家族や地域への発信として、広報誌、(月 1 回)、ブログ掲載 (月 1 回以上)、近隣の銀行で作品展示 (毎月)、町内会の夏祭りに手作り団扇 (8 月) を寄付する。
  - 2) 利用者を取り巻く環境を理解するために、利用者及び家族向けのアンケート (年 1 回) や家族交流会を開催 (年 1 回以上) する。
- (3) 専門性の向上への取り組みについて
  - 1) 各業務マニュアルを、より実用的で効果的に活用できるよう整備する。
  - 2) デイ、ほのか、つるま屋の合同研修 (年 10 回) や、他法人との合同研修 (年 2 回) を行うことで、利用者の状況に応じた対応力の向上に繋げる。
- (4) 目標利用率 86.5%を達成する
  - 1) 各関係機関との連携を適切かつ丁寧に行うとともに、随時空き状況について説明する。
  - 2) 居宅介護支援事業所への訪問時に、サービスの特色を記した広報誌を配布する。  
(月 1 回)

# 【認知症対応型通所介護芙蓉園（ほのか）】

## 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) サービスの提供について
- (2) 家族や地域との関わり方について
- (3) 専門性の向上への取り組みについて
- (4) 目標利用率 70.0%を達成する

2020年度目標利用率	2019年度目標利用率	2018年度実績利用率
70.0%	70.0%	65.2%

## 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) サービスの提供について
  - 1) 定期的なアセスメントやモニタリング、脳トレ活動を実施し、心身状態を把握する。
  - 2) 年間行事計画に基づき、見当識に働きかけるアクティビティを実施する。
  - 3) 意欲向上・役割達成感に繋げるため、趣味や経験を活かした活動を実施する。
- (2) 家族や地域との関わり方について
  - 1) 家族や地域への発信として、近隣の銀行での利用者作品の展示（隔月）、広報誌の発行（月1回）、ブログ掲載（月1回以上）を実施する。
  - 2) 利用者や家族のニーズを把握するために、家族会（年1回）や利用者及び家族向けのアンケート（年1回）を実施する。
- (3) 専門性の向上への取り組みについて
  - 1) 改定した業務マニュアルの運用を開始し、マニュアルに基づいたケアを実践する。
  - 2) デイ、ほのか、つるま屋の合同研修（年10回）や、他法人との合同研修（年2回）を行うことで、利用者の状況に応じた対応力の向上に繋げる。
- (4) 目標利用率 70.0%を達成する
  - 1) 入浴のニーズに対しては柔軟な対応を行い、既存利用者の増回・新規利用契約に繋げる。
  - 2) 丁寧な報連相で家族介護者と信頼関係を築き、満足感を得ていただく事で、既存利用者の長期利用に繋げる。

## 【地域密着型通所介護つるま屋】

### 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) サービスの提供について
- (2) 家族や地域との関わり方について
- (3) 専門性の向上への取り組みについて
- (4) 目標利用率 65.0%を達成する

2020年度目標利用率	2019年度目標利用率	2018年度実績利用率
65.0%	75.0%	73.4%

### 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) サービスの提供について
  - 1) 参加者が今まで培ってきた技能や経験を活かした活動を行う。
  - 2) 参加者の、誰かの役に立ちたいという想いを実現できる活動を行う。
  - 3) 下肢筋力の維持・向上のため、外出活動を行う。
- (2) 家族や地域との関わり方について
  - 1) 小学校見守り活動や街ピカ活動等、地域と繋がる活動を行う。
  - 2) 地域の一拠点として気軽に立ち寄れる場所づくりを目指し、新たなボランティアとの関わり合いを深める。
  - 3) 「参加者と家族と地域を繋ぐ交流会ポラリス」を運営推進会議と合同で行う。
- (3) 専門性の向上の取り組みについて
  - 1) ニーズに応じた関わり方ができるよう、事例検討会を行う。(年4回)
  - 2) ヒヤリはっと、事故報告、活動の振り返りを活かしたミーティングを行う。(毎日)
  - 3) デイ、ほのか、つるま屋の合同研修(年10回)や、他法人との合同研修(年2回)を行うことで、利用者の状況に応じた対応力の向上に繋げる。
- (4) 目標利用率 65.0%を達成する
  - 1) 参加者と共に営業活動を行う。(毎月)
  - 2) 地域と繋がる活動を通して、地域につるま屋の周知を図っていく。
  - 3) SNS発信(毎週)、通信発行(毎月)、ブログ発信(行事毎)を行う。

# 【ヘルパーステーション芙蓉園】

## 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) サービスの提供について
- (2) 家族や地域との関わり方について
- (3) 専門性の向上への取り組みについて
- (4) 目標件数・時間数を達成する

	2020年度目標	2019年度目標	2018年度実績
件数	9,140件	10,410件	10,006件
時間数	9,140時間	10,000時間	9,867時間

## 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) サービスの提供について
  - 1) 長年の経験で培ってきた技術を生かした調理サービスを積極的に広報し、安定的に提供する。
  - 2) 介護保険外のニーズを確認した際は、自費サービス（あったかサービス）として提供が可能であるかどうか、柔軟に検討する。
- (2) 家族や地域との関わり方について
  - 1) 地域に身近な存在となるよう、地域が主催する取り組み等に参画する。（夏祭り等）
  - 2) 関係各所との情報交換を密に行う事で、地域のニーズや状況を把握する。
- (3) 専門性の向上への取り組みについて
  - 1) ブランド化の軸としている、調理支援のサービス向上を目的とした登録ヘルパー向け研修会を、企画・開催する。（年2回）
  - 2) その他、ヘルパー業務に効果的な年間研修計画を策定し、実施する。
  - 3) 登録ヘルパーに個別確認表の記入を促し、個別育成計画の内容に反映することでヘルパーの意欲の向上に繋げる。（契約更新時）
  - 4) 登録ヘルパーへ、待遇・虐待のチェックリストを記名式にて配布し、意識の向上を図る。（年1回）
- (4) 目標件数・時間数を達成する
  - 1) 定期的な他事業所への訪問（毎月）、ブログ（適宜）、広報誌（年4回）によって、当事業所の特色や魅力を伝えることで選ばれる事業所を目指す。
  - 2) 新規の受け入れ・援助増回・変更希望等のニーズに迅速に対応できるよう登録ヘルパーの勤務状況の把握と勤務システムの検討及び改善を図る。

## 【居宅介護支援事業所芙蓉園】

### 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) ケアマネジメントの資質向上
- (2) 地域包括ケアへの取り組み
- (3) 計画的な人材育成
- (4) 目標件数を達成する

	2020年度目標		2019年度目標	2018年度実績	
	介護	予防	介護・予防	介護	予防
総件数 (年)	1,428	108	1,425	1,400	208
件数平均 (月)	119	9	118.8	117.7	17.33
常勤換算 (月)	123件/4人 (1人: 30.8件)		111.8件/4.6人 (1人: 24.3件)	126.4件/3.8人 (1人: 33.3件)	

\* 件数平均総数については、予防1件=1/2で計上

### 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) ケアマネジメントの資質向上
  - 1) リ・アセスメントの基本情報シートを活用し、情報の整理を行う。
  - 2) 更新プランのアセスメントは、リ・アセスメントシートを活用する。また、課題抽出の整理、明確化の為に、アローチャート手法を用いる。
  - 3) 業務の標準化に向け、課題を抽出しながら改善策を導き、実行する。
- (2) 地域包括ケアへの取り組み
  - 1) 南第1 高齢者支援センターと同法人の強みを活かし、適宜話し合いの場が設定できるように働きかける。
  - 2) 各会議へ積極的に参加するとともに、地域で実施されるケアマネジャー研修会等の企画・運営チームの一員として、開催・参加をする。
  - 3) 事業所内での情報共有の徹底を図る。
- (3) 計画的な人材育成
  - 1) 事業所全体及び個別の年間計画を策定し実行することで、知識と技術の向上を図る。
    - ① OJT: 所内会議にて個別事例を用いた事例検討を行う。(月1回)
    - ② OFF-JT: 人事考課表の1項目に具体的目標を掲げ、自己評価及び次なる課題の抽出を行う。
- (4) 目標件数を達成する
  - 1) 担当するケースの状況に応じ、持ち件数のバランスを考慮しながら、新規を積極的に受け入れる。

## 【南第1高齢者支援センター】（小川あんしん相談室）

### 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) 地域ネットワークの充実
- (2) 認知症の人にやさしい地域づくりの推進
- (3) 在宅療養を支える医療と介護の連携推進
- (4) 予防プランへの対応
- (5) 小川あんしん相談室の運営

2020年度相談件数	2019年度実績件数	2018年度実績件数
3,300件（275件/ 月）	3,276件（273件/ 月）	3,041件（253件/ 月）

（予測値）

### 2. 2020年度 取り組み計画

#### (1) 地域ネットワークの充実

##### 1) 地域ケア推進会議の開催

住み慣れた地域で、誰もが安心、安全に住み続けられるような支援を行うため、それぞれの地域課題を把握し、共有することで、地域が一体となって解決に向けて動いていけるよう、地域ケア推進会議を開催する。

今年度は、昨年度に抽出された地域課題である ①「救急時の意思決定への支援」、②「精神疾患と介護の連携」 ③「骨粗鬆症（転倒）の予防」という3つのテーマで、年3回の開催を予定している。

##### 2) 高齢者の見守り支援体制の拡充

高齢者の孤独死、孤立死を無くすため、2009年度からの事業として、南第1エリアでは3ヶ所で見守り支援ネットワークを立ち上げ、連絡会での情報交換や見守り啓発講座等によりネットワーク継続の支援を行ってきた。

最近では再開発による大規模新築マンションが増加する一方で、住民の高齢化が進んだマンションも増えてきており、自治会・町内会や民生委員との関係づくりを進めるとともに小規模な単位での見守り支援や見守り要員の育成に取り組む。

#### (2) 認知症の人にやさしい地域づくりの推進

##### 1) 認知症の早期発見・対応に向けた周知活動と支援

南第1における、昨年度の認知症に関する年間相談件数は600件を超え、年々、確実に増加してきている。早期に適切な医療や介護とつながることで、認知症になっても住み慣れた地域で生活が継続できるよう、地域イベントなどの機会を通じて認知症への関心や理解を広げていく。

また、必要な方には「もの忘れ相談事業」「認知症初期集中支援事業」を組み込むことで、



当該者や介護者の負担軽減に繋げる。

2) 認知症サポーター養成講座の開催

認知症の方に対する理解を持ったサポーターを、一人でも多く地域内に養成できるよう、認知症サポーター養成講座を年3回以上開催する。

昨年度に引き続き、小学生や民間事業者など多世代・多業種の方々に受講していただけるよう働きかけを行う。

(3) 在宅療養を支える医療と介護の連携推進

1) 圏域合同エリア会議と圏域合同地域ケア会議の開催

南圏域内での多職種間のネットワーク構築と、地域課題の共有・解決のため南圏域の3支援センター合同による専門職会議（エリア会議）を毎月（全12回）開催する。

また、医療と介護の連携として年2回圏域合同の地域ケア推進会議を開催する。

2) 町プロ（町田安心して暮らせるまちづくりプロジェクト）協議会への参画

2020年度から開設される「町田市医療と介護の連携支援センター」と連携し、町プロ協議会に参画することで、町田市の医療と介護の連携を図る。

(4) 予防プランへの対応

1) 居宅介護支援事業所への委託

要支援者の予防プランの件数は毎年着実に増加しており、限られた人員の中で総合相談や地域づくり等他の支援センター業務とのバランスを取りながら対応することが求められている。このため疾病や医療依存度、予後などを見極めながら近隣の居宅介護支援事業所への委託を進める。

(5) 小川あんしん相談室の運営

1) 支援センターのランチとしての周知、広報

あんしん相談室の向かいにある「薬樹薬局オガワ」と協働で、健康・栄養に関する講座を毎月開催する。また、講座の場において、支援センターの事業やあんしん相談室の機能を広報する。

2) 高齢者の総合相談・権利擁護・認知症高齢者に関する相談、支援の実施

小川あんしん相談室は、支援センター分室としての機能を併せ持つことから、見守り相談員を中心としながら、センターの専門職者との連携を密にすることで、総合相談窓口としての機能充実を図る。

## 【～ほっとステーション～ながれぼし】

### 1. 2020年度 取り組み目標

(1) 地域住民等の「集える居場所」として、来所者相互の交流が得られる環境を提供する

### 2. 2020年度 取り組み計画

(1) 地域住民等の「集える居場所」として、来所者相互の交流が得られる環境を提供する

1) 予約制による地域の活動団体のための活動場所を提供する。

趣味活動グループ	開催日	時間	参加費
①ハーモニカ同好会	第1月曜日(変動あり)	13:30~15:30	100円
②手作りの会	第1月曜日	09:00~12:00	無料
③手芸活動	毎週火曜日	13:00~16:00	100円
④フラダンス	第1, 4火曜日	10:00~12:00	100円
⑤民踊	第1, 3水曜日	13:30~15:00	300円
⑥大正琴	第3水曜日	10:00~12:00	500円
⑦歌声喫茶の会	第4水曜日	13:30~16:00	100円
⑧ヴィーナス(町トレ)	毎週金曜日	10:00~12:00	無料
⑨カラオケ	毎週金曜日	13:00~16:00	100円

2) 地域の多世代交流の拠点として各種イベントに参加・協力する

① 保育園のハロウィンイベントやまちだ南地域魅力発見プロジェクト等へ協力する。

## 【総務課】

### 1. 2020 年度 取り組み目標

- (1) 人材確保
- (2) 適正な会計管理
- (3) 債権・債務管理
- (4) リスク管理

### 2. 2020 年度 取り組み計画

- (1) 人材確保
  - 1) ホームページ、ハローワーク等の求人媒体を活用した採用活動を計画的に推進する。
  - 2) 効果的かつ効率的な各種学校への訪問を計画し、実施する。
  - 3) 新人職員に対して就職後の悩みや不安などを、入職後 3 か月以内に 1 回、以降は 3 か月ごとに個人面談し、各課連携のもと離職防止に努める。
- (2) 適正な会計管理
  - 1) 支出の削減を検討し計画的に実施する。(月 1 回)
  - 2) 適正に処理を実施するために、職員教育の強化と業務手順などの見直しを実施する。
- (3) 債権・債務管理
  - 1) 小口現金出納の管理方法を見直すとともに、カード支払いについても、業務手順を作成し実施する。
  - 2) 未収金、立替金や未払金の確認について、その管理方法や運用について見直しを図る。
- (4) リスク管理
  - 1) 設備の点検を定期的に行い、優先順位を見極め計画的な修繕を実施する。
  - 2) ボイラー設備の更新時、関係部署と連携を強化し、サービス提供の影響を最小限に抑える。
  - 3) 利用者、労働者の安全と健康の確保のために月 1 回の巡視を行い、危険箇所の把握と改善など、適切な環境整備を実施する。
  - 4) 事業継続計画 (BCP) の見直し、周知、訓練を実施する。

## 【栄養課】

### 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) 地域住民との食育推進
- (2) 多職種連携による食環境作り
- (3) クックチル導入に関する検討

### 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) 地域住民との食育推進
  - 1) 地域コミュニティーや行政と、食を通じた連携を図る。
  - 2) デイサービスや短期入所利用者の食育を推進する。
- (2) 多職種連携による食環境作り
  - 1) 利用者の心身機能や疾病をアセスメント表や多職種カンファレンスで把握し、食生活から低栄養や褥瘡、疾病の予防や改善を図る。
  - 2) 季節や個人の嗜好を組み入れた料理の提供をし、利用者個々の食事意欲を高める。
  - 3) 看取り期の利用者が食べやすく、楽しみに思える食事について多職種で検討する。
- (3) クックチル導入に関する検討
  - 1) 将来的な厨房職員の減少及び人材不足への対策を検討する。

### Ⅲ. 上総園

## 【上総園】

### 基本方針

総合福祉ホームとして、芙蓉会第4期中期計画に掲げた重点項目について、多角的・総合的に検討、研究を行い、実践に取り組むこととする。

中重度の入所（利用）者の受け入れおよび利用者の医療ニーズへの対応を多角的に検討し、職種協働により、「認知症の人のケア」「個別機能訓練（リハビリテーション）」「口腔衛生管理と栄養改善」「褥瘡の発生予防」「排泄ケア」等について、実践と評価を充実させ、個別ケアの向上を図る。

人材確保と育成を推進し、業務改革、職場環境の向上ならびに処遇改善に重点を置き、魅力ある職場づくりを目指す。「ホームページの活用」「福祉養成校・高校・大学等の訪問」「ボランティアやインターンシップの受け入れ」等を積極的に行い、介護人材の確保に努める。新人・中堅・幹部職員等の期待される役割に応じた人材育成プログラムの作成やキャリアパスを含むスキルアップシステムの確立・実践に取り組む。

東部地域包括支援センター事業（君津市委託）の運営ならびに居宅サービス事業を通じて、地域の「課題把握」につとめ、保健・医療・福祉を包括的、有機的に支援展開をすることで、地域包括ケアシステムの構築を目指す。

君津市介護保険事業計画、地域福祉計画・福祉活動計画への参加を推し進めるとともに、福祉教育・福祉活動を実践することにより、総合福祉ホーム上総園の「魅力発信」につなげ、地域及び関係機関、専門職能団体等との信頼関係を形成していく。



## 【特別養護老人ホーム上総園】

### 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) 地域との繋がりを強化し、施設の魅力を発信する
- (2) 医療ニーズへの対応を強化する
- (3) 多職種協働により個別ケアの充実を図る
- (4) 目標利用率 96.5%を達成する（空床ショート含む）

2020年度目標利用率	2019年度目標利用率	2018年度実績利用率
96.5%	96.5%	96.7%

### 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) 地域との繋がりを強化し、施設の魅力を発信する
  - 1) 地域行事への参加や協力を促進し、地域ニーズの把握に努めるとともに、施設の魅力を発信することで、利用者及び福祉人材の確保に努める。
  - 2) ホームページや広報誌等を活用し、地域内外へ情報を発信する。
- (2) 医療ニーズへの対応を強化する
  - 1) 排泄介助技術や清潔保持・衛生管理に関する個々の介護技術の質を高めることで、感染症等の疾病の発症予防と早期改善に努める。
  - 2) 協力病院等との情報共有、職員交流を活発化することで信頼関係を強化し、利用者の円滑な医療サービスの提供に繋げる。
- (3) 多職種協働により個別ケアの充実を図る
  - 1) 定期・随時のカンファレンスを継続し、専門職間の情報共有に努めることで、施設サービス計画書（ケアプラン）の質の向上を図るとともに、介護過程の展開における個別支援計画書との連動を深化する。
  - 2) 各専門職の専門性を高めるため、職能団体等が実施する外部研修への参加を促進するとともに、得られた知識や技術を多くの職員にフィードバックする仕組みを構築する。
- (4) 目標利用率 96.5%を達成する
  - 1) 空床期間の短縮を図るため、入所待機者の状況把握を継続するとともに、近隣事業所及び医療機関等への空床情報の提供を強化する。
  - 2) 空床型ショートステイ事業の円滑な利用を推進し、利用率の向上に努める。
  - 3) 近隣の居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等との情報共有を緊密に行うことで、大規模災害や被擁護者等による虐待等の緊急事案に際し、迅速な受入れを行う。

## 【短期入所生活介護上総園】

### 1. 2020 年度 取り組み目標

- (1) 地域住民のニーズを把握し、利用希望に対して円滑にサービス利用に繋げる
- (2) 医療ニーズへの対応を強化する
- (3) 多職種協働により個別ケアの充実を図る
- (4) 目標利用率 93.0%を達成する

2020 年度目標利用率	2019 年度目標利用率	2018 年度実績利用率
93.0%	93.0%	94.5%

### 2. 2020 年度 取り組み計画

- (1) 地域住民のニーズを把握し、利用希望に対して円滑にサービス利用に繋げる
  - 1) 利用者と利用日を調整する上で、利用日数や送迎方法、送迎の時間帯など可能な限り要望に沿った日程でサービス提供ができるよう、利用者、家族及び担当ケアマネジャーとの意見交換の場を増やす。
  - 2) これから新規でサービス利用を検討している方や将来的に施設利用を考えている方など地域住民のニーズを把握できるよう、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの情報共有を積極的に行い、利用しやすい施設を目指す。
- (2) 医療ニーズへの対応を強化する
  - 1) サービス利用中の利用者が体調不良になった場合に備え、あらかじめ家族や担当ケアマネジャーと連絡体制を確認する。医療情報記入用紙を活用し、緊急時の連絡手順、かかりつけ医連絡先や対応方法を明確にする。
- (3) 多職種協働により個別ケアの充実を図る
  - 1) 利用者個々の身体機能に合わせた生活リハビリや作業療法など、サービス利用中の活動が充実し利用者の満足度が向上するとともに、在宅生活の継続にもつながるサービス提供に努める。特に今年度は個別機能訓練を強化し、日常生活動作の適正な評価、利用者個々の「できる力」を活用できる取り組みを目指す。
- (4) 目標利用率 93.0%を達成する
  - 1) 特養空床も含めた施設の予約・空き状況を把握し空床ベッドの効率的な利用が促せるよう、居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等への情報発信を積極的に行う。
  - 2) 災害や介護者の疾病などの緊急の利用希望者にも柔軟、円滑な受け入れができるよう受け入れ態勢の強化を図る。



## 【上総デイサービスセンター】

### 1. 2020 年度 取り組み目標

- (1) 地域住民のニーズを把握し、利用希望に対して円滑なサービス利用に繋げる
- (2) 集いの場を提供する
- (3) 目標利用率 85.0%を達成する

2020 年度目標利用率	2019 年度目標利用率	2018 年度実績利用率
85.0%	85.0%	85.7%

### 2. 2020 年度 取り組み計画

- (1) 地域住民のニーズを把握し、利用希望に対して円滑なサービス利用に繋げる
  - 1) 多職種連携を図り、地域課題の把握に努める。
  - 2) 地域との積極的な繋がりを構築するため、地域ニーズの把握を目的とし、研修参加や担当者会議への出席を継続する。
  - 3) 多職種連携を図り、地域課題の把握に努める。
- (2) 集いの場を提供する
  - 1) デイサービスセンターの定休日を利用し、上総地区在住の高齢者を対象とした交流の場として解放し、集いの場として活用出来るよう検討する。
- (3) 目標利用率 85.0%を達成する
  - 1) 入院や長期に渡る療養が必要となった場合は、新規利用者の面接及び受け入れを迅速に行う。
  - 2) ショートステイや外来等によるキャンセルが発生した場合に備え、臨時での利用希望者を募ることで利用率の低下を予防し、安定した経営基盤の確保に努める。
  - 3) 本人や家族の都合によりデイサービスの緊急利用について問い合わせがあった場合は、送迎ルートや時間の調整を柔軟に行い、円滑な受け入れを図る。
  - 4) ホームページや広報誌を活用し、施設行事やデイサービスの魅力を発信する。

## 【居宅介護支援事業所上総園】

### 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) 地域住民のニーズを把握し、利用希望に対して円滑にサービス利用に繋げる
- (2) 集いの場を提供する
- (3) アクティブシニアの雇用により、地域の困りごとを解決する
- (4) 目標利用件数を達成する。

	2020年度目標		2019年度目標		2018年度実績	
	介護	予防	介護	予防	介護	予防
総件数 (年)	1,152	288	1,080	360	1,087	347
件数平均 (月)	96.0	24	90.0	30	90.6	29
常勤換算 (月)	108件/3人 (1人: 36.0件)		105件/3人 (1人: 35.0件)		105.1件/3人 (1人: 35.0件)	

\* 件数平均総数については、予防1件=1/2で計上

### 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) 地域住民のニーズを把握し、利用希望に対して円滑にサービス利用に繋げる
  - 1) 緊急及び対応困難事例への対応ができるよう、君津市東部地域包括支援センター、行政機関、サービス事業、その他の関係機関等と積極的に連携を図っていく。
  - 2) 医療ニーズの高い利用者等が住み慣れた地域で継続して生活ができるように、医療機関や地域医療の専門職、その他の専門職や民生委員等と連携に努めていく。
  - 3) 各種専門職能団体が開催する研修等に積極的に参加し、介護保険制度の動向及び介護支援専門員としての知識の習得やスキルアップを図っていく。
- (2) 集いの場を提供する
  - 1) 地域ケア会議等へ積極的に参加して、地域課題及びニーズの把握に努める。
  - 2) 地域ニーズや課題、地域におけるインフォーマルサービス等について把握する。
- (3) アクティブシニアの雇用により、地域の困りごとを解決する。
  - 1) 地域における集いの場を構築し、アクティブシニアが地域貢献できる機会を提供する。
  - 2) アクティブシニアの地域社会における役割を理解してもらうよう啓発活動を行う。
- (4) 目標利用件数を達成する
  - 1) 地域住民や君津市東部地域包括支援センター、医療関係及び関係機関等から新規相談があった場合は、積極的に受け入れを行う。
  - 2) 特定事業所加算Ⅲの算定を継続するとともに、「入院時連携加算」、「退院、退所加算」の算定を積極的に行い、安定した経営基盤を構築する。
  - 3) 各市区町村からの要介護認定調査の依頼があった場合は、公正中立な立場で速やかに実施する。

# 【上総園ふれあいデイサービスセンター】

## 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) 地域住民のニーズを把握し、利用希望に対して円滑にサービス利用に繋げる
- (2) 医療ニーズへの対応
- (3) 機能訓練・リハビリ機能の強化
- (4) 老人デイサービス 78.0%、障がいデイサービス 58.0%の目標利用率を達成する

	2020年度目標利用率	2019年度目標利用率	2018年度実績利用率
老人デイサービス	78.0%	70.0%	74.0%
障がいデイサービス	58.0%	50.0%	55.0%

## 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) 地域住民のニーズを把握し、利用希望に対して円滑にサービス利用に繋げる
  - 1) 居宅介護支援事業所へのサービス実績票の報告時に利用者情報の収集を行う。
  - 2) 利用実績の無い、介護支援事業所も訪問し利用者情報の収集を行う。
  - 3) 地域ケア会議等、地域会議に出席し地域情報を得る。
- (2) 医療ニーズへの対応
  - 1) 胃瘻、鼻腔栄養、在宅酸素、インシュリン治療者の受け入れの継続。
  - 2) 家族、介護支援専門員、主治医、訪問看護師との連携の継続。
  - 3) デイサービス利用時の健康管理の継続。
- (3) 機能訓練・リハビリ機能の強化
  - 1) 上総園理学療法士・作業療法士との連携強化。
  - 2) リハビリプランの検討及び評価。
  - 3) デイサービス利用時のリハビリ充実。
- (4) 老人デイサービス 78.0%、障がいデイサービス 58.0%の目標利用率を達成する
  - 1) 介護支援専門員、障害相談支援専門員との連携を密にし、新規利用者開拓につなげる。
  - 2) 利用者の健康把握に努め、体調不良による休日を減らしていく。
  - 3) 利用者には選ばれるデイサービスになるよう、日々研鑽する。

# 【君津市東部地域包括支援センター】

## 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) 地域住民のニーズを把握し、利用希望に対して円滑にサービス利用に繋げる
- (2) 集いの場を提供する
- (3) アクティブシニアの雇用により、地域の困りごとを解決する
- (4) 予防プラン（直轄）の目標利用件数 60 件を達成する

	2020 年度相談件数		2019 年度実績		2018 年度実績	
	委託	直轄	委託	直轄	委託	直轄
総件数（年）	1,260 件	720 件	1,212 件	668 件	1,314 件	433 件
件数平均（月）	105 件	60 件	101 件	55.6 件	109.5 件	36.1 件
直轄常勤換算（月）	60/5 人（1 人：12 件）		56/5 人（1 人：11 件）		36/4 人（1 人：9 件）	

（予測値）

## 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) 地域住民のニーズを把握し、利用希望に対して円滑にサービス利用に繋げる
  - 1) 総合相談にてニーズを把握し、適切なサービスや機関に繋げる。
  - 2) 地域ケア会議を開催することにより、個別課題、地域課題を把握する。
  - 3) 指定介護予防支援事業において、個々の状況に応じた介護予防サービス計画を作成する。
- (2) 集いの場を提供する
  - 1) 認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に関する理解を深める。
  - 2) 地域住民に向けて出前講座を開催する。
  - 3) 上総地区の文化祭に参加し、集いの場に関するニーズを把握する。
- (3) アクティブシニアの雇用により、地域の困りごとを解決する
  - 1) 出前講座等の場において、地域活動に意欲のある人材を見つける。
- (4) 予防プラン（直轄）の目標利用件数 60 件を達成する
  - 1) サービス利用希望の要支援者の受け入れを行う。
  - 2) 研修等に参加することによりケアマネジメントの技術を向上させる。
  - 3) 地域のケアマネジャーとの事例検討会等を通して、情報の共有・ネットワークの構築を行う。

## 【総務課】

### 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) 人材確保に向けた取り組みを強化する
- (2) 経営計画の着実な推進に努める
- (3) 防災対策を推進する

### 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) 人材確保に向けた取り組みを強化する
  - 1) 各種学校等の学生に対し、上総園の魅力を直接感じてもらえるよう、学生と協働した催しの開催等について検討、実施を図る。
  - 2) 求職活動者や一般の方に対し、より園内の情報が伝わりやすくなるよう、ホームページの見直しや広報誌等の充実を図る。
  - 3) 職員が定着して長く活躍をしてもらうため、ハラスメント研修やメンタルサポートを継続し、安心して働ける職場づくりに努める。
  - 4) 業務手順書の策定を行い、作業の効率化・情報の見える化を推進し、効率的で働きやすい職場環境を構築する。
- (2) 経営計画の着実な推進に努める
  - 1) 各加算の算定要件を精査し、算定可能な加算を見極めて収益確保を図る。
  - 2) 補助金を活用した、福祉用具の更新により利用者が快適に生活できる空間を作るとともに環境に配慮しながら経費削減に取り組む。
  - 3) 旧館取り壊し工事の着工に向けた準備。
  - 4) 小中学校や公民館活動に参加し、地域における公益的な取り組みの推進を図るための実施計画の策定を行う。
- (3) 防災対策を推進する
  - 1) 利用者と職員の安全確保や事業の継続のために必要な情報収集や意思決定の仕組みについて、対策本部の設置や役割分担、安否確認方法などを事前に検討する。
  - 2) 非常時に事業を継続するため、早期復旧する際に不足すると考えられる人材や設備などの資源において、代替案を具体的に検討する。
  - 3) 従来の火災・地震災害等への対策に加え、台風等の自然災害に伴う豪雨・洪水等による水害や土砂災害に備えるため、ハザードマップを有効に活用した、避難訓練や防災教育等を徹底する。

## 【栄養課】

### 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) 栄養ケア・マネジメントの充実
- (2) 五感で楽しむことのできる食事の提供
- (3) 地域との繋がりを強化し、施設の魅力を発信する

### 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) 栄養ケア・マネジメントの充実
  - 1) 利用者の栄養状態を維持するため、上総園における栄養ケア・マネジメント体制に基づき、多職種協働の下で栄養ケア・マネジメントを継続する。
  - 2) 特に医療ニーズの高い利用者に対しては、関係職種間で随時対策を講じ、その情報を共有して状態の悪化防止に努める。
- (2) 五感で楽しむことのできる食事の提供
  - 1) 四季の移り変わりを感じられる行事食や、郷愁の念を抱けるような地域色のある食事などを取り入れた新しい献立を立案する。
  - 2) 嚥下困難者でも、見た目や味を楽しむことができる食材、食事提供方法を研究する。
  - 3) 利用者の楽しみの場を設けるため、月一回フロアごとに栄養課職員が出向いて調理する「手作りおやつ」を継続する。
- (3) 地域との繋がりを強化し、施設の魅力を発信する
  - 1) 週一回実施している配食サービスを継続し、地域の独居高齢者への食事支援に努める。
  - 2) デイサービスにおいて「料理教室」を実施し、楽しみながら行える作業訓練を兼ねたレクリエーションの場を提供する。
  - 3) 地域住民に介護食や介護予防の必要性を啓蒙するため、介護教室にて集団栄養教育を実施する。

## IV. 文京地域

## 【文京地域】

### 基本方針

今年度は、第4期中期計画の2年目となる。1年目の取り組み実績や課題について共有し、それをさらに深化し、より良い実践に取り組む。

文京湯島・昭和高齢者在宅サービスセンター（以下「湯島・昭和」とする）は、中期計画作成に当たり、そのビジョンを「地域住民に必要とされる介護・介護予防の拠点づくり」とする。

その歩みの中で築いてきた併設の小学校との日常的な交流や地域活動の取り組み、リハビリテーション専門職による個別・集団の機能訓練の実践や豊富な各種アクティビティ活動の提供などの安定したサービスの提供体制を構築するとともに、組織体制の強化を図る。

福祉避難所を文京区から受託契約をしているが、災害時に混乱なく対応できるように体制を整えていく。今後も文京区や地域と連携を図りながら、災害時要支援高齢者の支援と地域防災に取り組んでいく。



文京湯島高齢者在宅サービスセンター



文京昭和高齢者在宅サービスセンター



# 【文京湯島高齢者在宅サービスセンター】

## 1. 2020年度 取り組み目標

- (1) 利用者の「個別性」を尊重し、個々の意向に沿った質の高いサービスの提供
- (2) 「アクティビティ活動」「リハビリサービス」「入浴サービス」の更なる充実
- (3) BCPの作成、災害対策の具体化（「福祉避難所」としての自治体との連携）
- (4) 目標利用率 80.0%を達成する

2020年度目標利用率	2019年度目標利用率	2018年度実績利用率
80.0%	80.0%	70.1%

## 2. 2020年度 取り組み計画

- (1) 利用者の「個別性」を尊重し、個々の意向に沿った質の高いサービスの提供
  - 1) 質の高いサービスを提供するために、引き続き週1回のケースカンファレンスや毎日のミーティングを継続し情報の共有化を図るとともに、運営に関わる全ての話し合い等の内容を簡潔に記録化し、情報を周知できる体制を整える。（第三者評価及び内部監査指摘事項）
  - 2) 「デイサービス機能」の可視化事業（東京大学成瀬先生）の共働研究を進めていく。（第三者評価推奨事項）
- (2) 「アクティビティ活動」「リハビリサービス」「入浴サービス」の更なる充実
  - 1) 「アクティビティ活動」の自己選択性を継続。個々の意向に沿ったアクティビティ活動の提供を行う。
  - 2) 常勤の理学療法士（PT）と作業療法士（OT）2名体制であることを生かし、目標に合わせたリハビリプログラムを「大集団」「身体機能に合わせた小グループ」「個別」と多様な形態で提供し、内容の充実と満足度の向上を図る。
  - 3) 入浴定員を1日6名→10名へ拡大（約7割増）し、在宅で一人での入浴に不安がある方の支援を中心に、入浴希望のニーズにも柔軟に対応する。
- (3) BCPの作成、災害対策の具体化（「福祉避難所」としての自治体との連携）
  - 1) BCP計画の作成を進め、「福祉避難所」として災害時の対応と対策をより具体化する。
- (4) 目標稼働率 80.0%を達成する
  - 1) 新規利用者や回数増加の要望に添えるように、毎月、送迎や入浴の見直しを図り、スムーズな受け入れ態勢を整えていく。

# 【文京昭和高齢者在宅サービスセンター】

## 1. 2020 年度 取り組み目標

- (1) 利用者の個性や意思を尊重した対応を心掛ける
- (2) 活動プログラムを充実する
- (3) リハビリサービスを充実する
- (4) 記録類を整備する
- (5) BCP計画及び災害時の対応を整備する
- (6) 目標利用率 90%を達成する

2020 年度目標利用率	2019 年度目標利用率	2018 年度実績利用率
90.0%	90.0%	93.6%

## 2. 2020 年度 取り組み計画

- (1) 利用者の個性や意思を尊重した対応を心掛ける
  - 1) 話をしやすい環境を作り、一人ひとりに丁寧に関わる。
  - 2) 「デイサービス機能」の可視化事業（東京大学成瀬先生）の共働研究を進めていく。  
（第三者評価推奨事項）
- (2) 活動プログラムを充実する
  - 1) 現在の「創作グループ」「いきいきグループ」「ほのぼのグループ」「昭和塾」「麻雀・将棋グループ」のグループを継続する。
  - 2) 活動内容は、グループの利用者の状態を考え、1年間の目標を立案し、達成できるような内容にしていく。
- (3) リハビリサービスを充実する
  - 1) 身体機能に合わせて「大集団」や「機能別的小グループ」、「個別」でのリハビリを実施する。小グループでは、区民に身近な「文の京体操」を継続していく。
- (4) 記録類を整備する
  - 1) 日常的な打ち合わせ等でも記録を残す。（第三者評価及び内部監査指摘事項）
- (5) BCP計画及び災害時の対応を整備する
  - 1) 文京地区で共通のBCP計画を作成する。
  - 2) 実行可能な災害時の災害マニュアルを作成する。
- (6) 目標利用率 90%を達成する
  - 1) 45名定員で50名の登録としているが、現状の登録人数を維持する。

## 【昭和介護保険サービスセンター】

### 1. 2020 年度 取り組み目標

- (1) 在宅生活継続のための支援
- (2) 文京区内の他事業所との連携の充実
- (3) 目標計画作成件数 65 件の達成

	2020 年度目標	2019 年度目標	2018 年度実績
	介護	介護	介護
総件数 (年)	780	660	699
件数平均 (月)	65	55	58.25
常勤換算 (月)	65 件/2.3 人 (1 人: 28 件)	55 件/2.2 人 (1 人: 25 件)	58 件/1.8 人 (1 人: 30.6 件)

### 2. 2020 年度 取り組み計画

- (1) 在宅生活継続のための支援
  - 1) 利用者が住み慣れた地域で在宅生活を継続するためのケアプラン作成を実践していく。
- (2) 文京区内の他事業所との連携の充実
  - 1) 区や他事業所との連携を図るため、文京区での 2 か月に一度の「介護事業者連絡会」への出席、地域で開催されている会議等への参加をしていく。
- (3) 目標計画作成件数 65 件の達成
  - 1) 今年度は目標稼働率 65 件を達成していくために、終了が決まった場合においては、管轄の地域包括支援センターへ相談するとともに、文京区の介護事業者検索システムへ空き情報を掲載し、65 件の目標件数を維持していく。また、必要な帳票類は一年を通して一度は自己点検を行っていく。